

JCHO うつのみや病院新聞



新しいみ

第1号

通算69号 2014.5.15 発行

独立行政法人地域医療機能推進機構 (Japan Community Health care Organization : JCHO) うつのみや病院
〒321-0143 栃木県宇都宮市南高砂町 11-17 TEL028-653-1001 HP アドレス JCHO うつのみや病院 <http://utsunomiya.jcho.go.jp/>

JCHOうつのみや病院の 院長としての挨拶

病院長 ■ 草野 英二



初夏の候、職員の皆さんには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当院は本年4月1日から独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) うつのみや病院として生まれ変わりました。地域医療と地域包括ケアの要となるよう、またそれを支える人財を育成する病院として、全国57病院がJCHOグループ病院として始動しました。この渦が全国各地に広がります。各地で花が開けば素晴らしいと思います。

現代社会は少子高齢化、核家族化が進行中であり、高齢者の孤独死や介護の問題などがメディアでも取り沙汰されていますが、解決にはまだ程遠いといったところです。チームJCHOはこれら現代社会の抱える問題に正面から取り組む組織で、全国に2万3千人の職員を擁して活躍を展開するところです。先日、第二回目のJCHO院長会議がありました。尾身理事長は「攻めは果敢に守りは鉄壁」に行いましょうと呼びかけました。新しい組織ですので、旧弊を打破して攻めの姿勢は必要で、是非とも皆さ

んでこのJCHOを発展させるべく、各部署で自分たちの展開すべき医療を語り合ひましょう。

医師にあつては2次救急患者は出来る限り診るようになることが基本だと思えます。JCHOの医師に求められる理想形は専門を有する総合医です。自分の専門は勿論深く極めて頂きたいと思いますが、同時に幅広く臨床を学ぶ姿勢を持つという謂わばT字型医師を目指したいものです。私は経験こそが人を育ててくれる最大の教師だと思つています。是非とも周りの先生方やJCHOうつのみや病院に送つて頂いた先生方と連携を取つて患者さんを診断、治療して幅広く臨床経験を積んでゆきたいものです。それぞれの科で経験した貴重な症例は報告できるものは学会や研究会で発表して頂きたいと思えます。指導医の先生も是非ともそのような気持ちで若い先生方を指導して頂きたいと思えます。

また、臨床研究も是非とも推進して各学会に発表して頂きたいし、出来たら国際学会にも果敢にチャレンジして頂きたいと思えます。理事長は短期の海外留学も可能に

したいと話していますので、是非そのような機会も可能にしたいと考えています。さらにはJCHOグループという57病院のスケールメリットを生かして健診のデータを活用して臨床疫学研究や各病院の特性を生かした臨床研究も可能となりますので、興味のある方はそのような研究にも参画頂きたいと思えます。

若い医師が集まるか否かは、JCHOうつのみや病院が前述のような魅力溢れるものを提供できるかどうかのポイントです。是非とも魅力的な病院作りを皆さんで企画していきます。

看護師さんをはじめとするコメディカルの方々の活躍も、勿論極めて大切です。医療はチームで行うものですから、皆さんの息が合うことが何より肝要です。私の専門の腎臓、透析を例にとってもそれは明白です。医師のみならず看護師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士、検査技師、理学療法士、事務職の皆さんとの連携があつてはじめて患者さんが安心して透析導入、合併症治療、食事療法、リハビリ、生活のサポートなどがスム

ズに行うことができます。幸い、当院はチーム医療体制が十分組まれていると確信しています。時折、誰かが体調を崩したとか、休みを取らなくてはならないときなど種々の状況は出てくるかと思いますが、皆さんでカバーし合いチーム医療の妙味を生かして頂きたいと思えます。

最後にこのJCHOグループ病院へのチェンジを「向き不向きよりは前向き」との明るい気持ちで、また楽しみながら乗り切つて行きましよう。私も不転の気持ちで事に当たりたいと考えていますので、職員の皆さんも健康に留意しつつ活躍されることを祈念致しております。



地域に根ざしたよりよい病院を

事務部長 ■ 千葉 仁司



4月1日付けでJCHOUつのみや病院の事務部長を拝命いたしました千葉です。前勤務地は新潟県上越市所在の国立病院機構さいがた医療センターでした。独立行政法人国立病院機構（NHO）は、平成16年に国立から独立行政法人となり、この4月でちょうど十年を迎えた独立行政法人としてはいわゆる先輩にあたる組織です。うつのみや病院も旧社会保険病

院から新たな独立行政法人地域医療機能推進機構組織の一員として、JCHOUの使命の一つである地域医療・包括ケアの役割を担うべく新しく生まれ変わりました。まさに機構の名称のとおり、地域に根ざした様々なニーズに応えるべく医療機能の向上を図り、また情報発信を行うていかなければなりません。自立できる病院体質への改善も早

急に行っていく必要があります。私自身もNHO時代の経験を生かして病院経営の見直しに力を注いでまいりたいと考えていますが、まずは病院全体で情報共有を行うとともに、各部門からも経営改善につながるご提案を頂戴しながら検討を重ね、よりよい病院運営ができるよう頑張る所存ですので、職員の方々のご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

おかげさまで

第36回

薬王寺住職

倉松 俊弘



独立行政法人地域医療機能推進機構「うつのみや病院」（少し長いですがね）。心機一転新しい機構でのスタートです。今以上に地域医療に密着した信頼ある病院になりますようにお祈り申し上げます。

さあ新しいスタートです。この病院も一段階階段を上ってきました。今まで何段目まで上ったのでしょうか？ 今百段目を上ろうと想像して下さい。いきなり百段目は上れません。今までしっかりと九十九段を上つてこられたから百段目までたどり着いたのです。九十九段目までの景色は皆さん観ることができません。しかし、百段目の景色は上った人しか観ることができません。どうか職員全員一緒に仲良く百段目を上り、そこにしかない美しい景色を眺めて下さい。そして永遠に続く階段を二歩二歩上り続け、新たな景色を観つづけて下さい。毎年、毎日が次の階段の礎になるのです。

新入職員のみなさん、綺麗な桜を観ながら出勤されたことと思います。この季節、心晴れやかにすがすがしい気持ちになります。やる気満々、しかし不安も少し少なくなります。

私はこの季節いつもこんな事を思います。桜満開は大変嬉しいのだけれども、そのうち散ってしまう。花びらは精一杯自分のできる限りの力を尽くし、与えられたいのちを終えて散る。その後には夢が散ります。夢は精一杯自分のできる限りの力を尽くし花びらを支え、与えられたそのいのちを終えて散ります。後には新緑が映え、秋には様々な色に紅葉します。そしてその葉も精一杯自分のできる限りの力を尽くし、与えられたいのちを終えまた散ります。冬の寒さに耐え、また春には新しい息吹となつていのちが生まれ、私たちを心とませてくれます。「諸行無常」こんな有り難いことを教えてくれる桜に感謝するのです。

愚僧の一句。
「待つていた、桜満開、この季節。嬉しくもあり、悲しくもあり。」

合掌

地域に必要とされる

JCHOUつのみや病院を目指して

看護部長 ■ 細野 克子



4月から看護部長を拜命致しました細野と申します。前任地は、日本赤十字社芳賀赤十字病院です。36年間に亘り赤十字病院一筋で、看護および看護管理を実践して参りました。この経験を活かし、JCHOUつのみや病院の職員の皆様と共に新組織の構築に向けて努力する所存でございます。ご指導のほどお願い申し上げます。さて当院は、超高齢時代の医療

に求められる条件を全て網羅し、すでに機能していると実感致しました。それは、急性期病棟から回復期リハビリテーション病棟さらに介護老人保健施設を有しており、医療・看護・介護が集結してチーム医療を推進し、地域の皆様のニーズに込んでいるからです。そこで看護部長の役割・使命として、一つは職員が安心して働ける環境を整備する。二つは自己実現

のための教育支援をおこなう。三つはJCHOUつのみや病院で働ける喜びを分かち合う。を具現化することです。そのためには、将来性のある当院で働けることに感謝し「人材」を「人材」とする関わりを実践していきます。地域の皆様からも職員からも選ばれ、そして地域に必要とされるJCHOUつのみや病院を目指しましょう。



境内の桜

第11回 医療マネジメント研究発表会

今年の医療マネジメントは例年にない大雪となりました。宇都宮市は12cmの大雪にもかかわらず第11回医療マネジメント研究発表会は皆様のご協力により、無事終了することができました。

平成26年4月から独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)うつのみや病院として生まれ変わりました。生まれ変わるにあたり、草野英二病院長からのあいさつにもありましたように、JCHOの果たすべき使命を職員一人ひとりが理解し、協力していかなければ使命は果たせません。今回の医療マネジメント研究発表は、移行にあたり、職員一人ひとりができることを考えることを目的としてシンポジウムという形式や尾身茂理事長の特別講演という形式で進めさせていただきました。アンケート結果から、ほとんどの方が、内容は「大変よかった」と回答されました。中には「自分は何ができるか考える機会をいただいた」というコメントも複数ありました。このような結果から、今回の医療マネジメント研究発表会は大変意義のあるものだと感じております。

今後は、JCHOの使命を職員が一丸となり果たしていくことが大切だと考えております。

3階北病棟 看護師長 石川美香子

【I. 特別講演】「JCHOへの移行に向けて職員の皆さんに期待すること」

独立行政法人 年金・健康保険福祉施設整理機構
理事長 尾身 茂先生



1年間力を合わせて頑張りました



【II. シンポジウム】 【シンポジウムⅠ】

質疑にも丁寧に分かりやすく答えていただけました

救急患者受け入れに対する院内連携の強化 ～各部署の現状と今後の課題～



参加者128名。「JCHOへの期待を胸に★」

【シンポジウムⅡ】

健診センターと外来診療の連携強化 ～各部署の現状と今後の課題～



草野院長からの挨拶で始まりました



外は10年に一度の大雪。その中で開催しました



山口看護師長が総司会を務めました

趣味のパンフフラワーに想いをよせて

健康管理センター
保健師 ■ 安藤 信子

趣味のパンフフラワーを始めて約15年になりますが、花好きのルーツは、生まれ育った栃木県南部の田舎の風景にあります。雑木林に咲く福寿草、すみれやかたくり草、野原に咲く蓮華やタンポポ等二年中花が見られました。そのため小さい頃からお花が大好きで、学生時代には高山植物の咲き乱れる季節を追って山登りを始めました。寒い厳しい冬にも耐え、春を待ちわびて咲く花の色は鮮やかで、夏の雪の白さとマッチして、とても素晴らしいものです。早池峰山、月山、鳥海山、白馬岳、白山と花の山を歩きました。



そして、体力の限界を感じるようになった頃、お友達に誘われて花は健診センターにも飾らせていただきましたが、私にとつて忘れられないのは、三人の職場のお仲間の結婚式のブーケを作らせていただいたことです。娘には間に合いませんでしたが、その機会を与えていただいたことに深く感謝してお

月1回のパンフフラワー教室に通い始めました。生花には敵いませんが、お部屋いっぱい花に出来るのを夢みました。粘土細工で花や動物や木の実を作るのですが、自分でもこれが粘土なのかと驚くほどでした。始めて5年くらいたった時、先生から師範の免許をとることを勧められました。

それまでは、好きな花を沢山作っていました。規定にそつた花を作ることになりました。漫然と作っている時と違つて目標をもつたことにより出来栄も一段とよくなり、ストレス解消と私の生き甲斐にもなりました。好きなもの、やりた



ります。

パンフフラワーはあくまで造花ですが、華やかで花ではなく、家具と同じように何年たつてもその部屋に溶け込むような安らぎあ

る花を私は作りたいと思っています。そしてこれからは、10年後にはあのふる里のように花の咲き乱れる山里をイメージした「個展」を開くことを目標に頑張りたいと思います。



From one of Editors

編集後記

独立行政法人 地域医療機能推進機構 うつのみや病院とつて初めての発行となります。今年の4月は、新機構へ移行・消費税8%へ増税と変更が多い幕開けとなりました。新機構移行へ向けて、変更作業の忙しかつた部署も多かつたのではないのでしょうか？ 健康管理センターでは、各健康保険組合や共済組合等と契約を行っていますので、すべて再度取り交わすこととなります。名称変更と金額変更のダブルパンチで作業も苦労しました。皆さんはどうだったでしょうか？

さて、もう一つの消費税増税ですが、増税前に駆け込みでほしかったものを購入した人も多かつたと思います。我が家でも、駆け込みで車を購入しました。出費は痛いですが、高いものほど増税されると買いにくくなるもので……思い切つて買つてみました……(汗)。これからが大変ですが、ガソリンも高くなつている事です！leoを心がけます。病院も新しく生まれ変わり、心機一転みんなが病院を盛り上げていきましょう。

くま好きの親父。

●「新しいすみ」に関するご意見、イベント情報などを、どんどんお寄せ下さい。

編集委員

- 委員長 / 千葉
- 委員 / 木平、龍福、星、大橋、設楽、岡田、水沼、矢口、小川

●次回発行予定日 ●平成26年9月